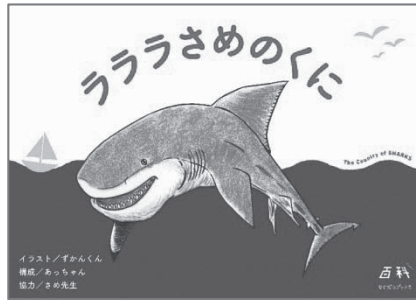


絵本ずかん「ラララさめのくに」制作プロジェクトの全貌

藤田敦子・田中一秀（百科編集部）・仲谷一宏（北海道大学）・桜井雄・石井陽風・
今尾真也（百科編集部／さかだちブックス／リトルクリエイティブセンター）・
臼井南風（さかだちブックス／リトルクリエイティブセンター）



はじめに

田中は、自らの息子が生まれるのを機に、魚を中心とする海の生き物の1ページ手描きずかんを描くことをライフワークとするようになった。発表はSNSを通じて行い、サメ約500種への挑戦を始める。仲谷博士などからチェックを受けるようになった。

仲谷博士は、実の娘でもあるミュージシャンのネネッチとともに、「さめ先生のサメの歌」を作り、YouTubeで発表をしている（2018年2月11日現在14曲）。田中は、そのサメの歌より「ホホジロザメ」「メガマウスザメ」を利用した「ずかん」を描く許可を得ていた。

藤田は2015年に百科編集部を立ち上げ、2016年9月に、岐阜大学を会場にして日本魚類学会年会有り、全国からのお客が来るので盛り上げたいから何か出展してもらえないか、と、相談を受けた。そんな中で、田中の「食べて美味しいぼくちのおさかなずかん」の冊子を制作し、原価頒布した。その後、岐阜県博物館で行われた2017年3月11・12日魚類自然史研究会などでの発表を経て、「仲谷先生に監修をしていただき、手軽に読める、サメの絵本を作れないか？ サメの歌も使わせてもらいたい」と、企画を立ち上げた。

経過

- ①2017年3月 「ラララさめのくに」基本構想を仲谷博士に打診→了解を得る。
- ②自然系ファンに助成金を申請するも却下される。
- ③教材系出版社にも企画を持ちかけるが、編集会議まで上げていただけたが不採用
- ④「百科」発行元の岐阜市のリトルプレス「さかだちブックス」より、出版費用は百科編集部負担で制作を決める。A5またはB5のコンパクトな読み物を意識していた。ISBNコードをつけること、アマゾンでの販売をしてもらえること、の2点を今尾が代表を務めるさかだちブックスとの間で取り決める。デザインは、「百科」3号のデザイナー、リトルクリエイティブセンターの臼井となる。
- ⑤金生山化石館で打ち合わせや報告に行く際に、高木館長から資料などの情報を提供される。
- ⑥2017年6月仲谷博士から初回の指導を受けるが、根本から考え直しなさい、と、厳しい返答が返ってくる。読者（子ども・親子）をよく考え、ひらがな・感じ・ルビの使い方を考える、学名は外す、など。また、個別のサメについても下記のような指導があった。
 - イタチザメ…何でも口に入るものは噛み砕いて食べるが、生息域にいるものと整合性が持たせる
 - シュモクザメ…鼻孔の形や、種類による頭部の幅と銅の幅との比率に注意すること
 - ヤジブカ…メジロザメ全体の特徴が混ざっている→その後、淡水にも生息するオオメジロザメに。

⑦指摘が厳しく、田中はしばらく描けなくなる←どうにか、励まし、おだて(?)、そそのかし(?) 再びとりかかる。しめきりは決まっている。

⑧考えを三人で共有するために、SNSのメッセージで仲谷・田中・藤田の3人グループを作る

⑨アドバイスを受けるために、SNSのメッセージで沖縄で魚の分類がライフワークの桜井雄氏とグループを作る。

⑩ノコギリザメ事件勃発

●撮影の際のノコギリ(吻部)の使い方の修正(掘って楡採るという考え方を採用しないことに)

●ノコギリエイとの描き分けについて、厳しい感想

→監修がチェックするからち思っているなら、責任もてないですよ(仲谷)

⑪饗場空璃さん(中学生)、石井陽風さん(小学生)、諏訪優美愛さん(大学生)、福島茂喜さん(鮮魚店)による資料提供などの協力が始まる。

⑫7月、大阪・海遊館で開催されたジンベエザメのシンポジウムの後、ご挨拶がてら、およそ10分間の意見交換を藤田と仲谷博士との間で行う。初対面であった。

●わからないものはわからないものとして、提示しよう。知ったかぶりや決めつけはダメ。また、わからない方が夢がある。

⑬このころから、仲谷博士からのチェックは「よろしいんじゃないでしょうか」に変わってくる。

⑭ヨシキリザメ・メッセージ…気仙沼にいていた仲谷博士から、草稿についてよく見ましたという気を感じるFB投稿があった、

⑯2017年9月16日 仲谷博士が、日本居類学会年会@函館で、「サメの歌」の活用事例として「ラララさめのくに」プロジェクトを紹介してくれる。このため、大急ぎで表紙データを白井さんに制作してもらおう。

●何回かの校正を見て、原稿は、とりあえず完成となる。ここからはデザイナーの白井さんが大活躍。

⑰岐阜アートフォーラム(於上宮寺)で「ラララさめのくに」発表! 10月28日(土)~11月4日(日)

大正時代の数寄屋風のはなれのお座敷をサメ部屋にする。このとき、岐阜県博物館からもイタチザメとシロワニの顎標本を借用することで、より興味をひくことができた。



その後

①2018年1月27日、伊丹市での「Where Culture Meets Nature」展関連シンポジウム「まちかど博物館のつくりかた」で岐阜アートフォーラムを事例紹介

②2018年3月4日~25日に、東京・羽田空港第1ターミナルStamps CAFÉで、出版記念「Welcome to The Country SHARKS!」のイベントを開催

③2018年5月30日、岐阜・草の根交流サロン@楮はなれで「ようこそ DEEP な世界に~サメ丸わかり「ラララさめのくに」~もっとサメを知ろう~サメを食べてみよう~が開催され、トークを行う予定 ☆その後、どのような展開がまっているのか、楽しみである。

